

平成 29 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働特別研究事業）
「無痛分娩の実態把握及び安全管理体制の構築についての研究」
報告書

「無痛分娩に関するワーキンググループ（仮称）発足に向けた調整について」
研究代表者 海野信也（北里大学病院長）

研究要旨

- 本研究班の検討の成果としての提言の実現を担う新たな組織の立ち上げにむけた活動を行い、組織を構成する関係学会・団体の一定の合意を得た。

「無痛分娩の実態把握及び安全管理体制の構築についての研究」研究班構成員

（○：公開検討会構成員、□：作業部会構成員）

【事務局】

研究代表者： 海野信也 北里大学病院・院長・産婦人科学
研究分担者： 石渡 勇 石渡産婦人科病院・院長・産婦人科学
研究分担者： 板倉敦夫 順天堂大学医学部・教授・産婦人科学

【研究協力者】

- 阿真京子 知ろう小児医療守ろう子ども達の会・代表理事：患者（妊産婦）の立場
- 飯田宏樹 岐阜大学医学部・教授・麻酔科学：日本麻酔科学会より推薦
- 石川紀子 静岡県立大学看護学部・准教授・助産学：日本看護協会より推薦
- 後 信 九州大学病院・教授・医療安全管理部長・医療安全学 医療安全の立場
- 前田津紀夫 前田産科婦人科医院・院長・産婦人科学：日本産科婦人科医会より推薦
- 温泉川梅代 日本医師会・常任理事：日本医師会より推薦
- 天野 完 吉田クリニック・産婦人科学：日本産科麻酔学会より推薦
- 池田智明 三重大学医学部・教授・産婦人科学：日本産科婦人科学会より推薦
- 奥富俊之 北里大学医学部・診療教授・麻酔科学：日本産科麻酔学会より推薦
- 角倉弘行 順天堂大学医学部・教授・麻酔科学：日本麻酔科学会より推薦
- 照井克生 埼玉医科大学・教授・麻酔科学：日本周産期・新生児医学会より推薦
- 永松 健 東京大学医学部・准教授・産婦人科学：日本産科婦人科学会より推薦
- 橋井康二 ハシイ産婦人科・院長・産婦人科学：日本産科婦人科医会より推薦

A. **研究目的**：本研究班では、平成 29 年度限りという特別研究の限界を踏まえ、無痛分娩の安全な提供体制の構築のために必要な方策について検討し、それを年度内に提言としてまとめるとともに、提言の実現のための方策をあわせて検討した。その結果、平成 30 年 2 月の時点で、研究班構成員の間で研究班を構成する関係学会・団体が中心となって次年度以降継続的に活動する新たな組織を構築することが必要という認識を共有した。本研究では、この新たな組織を構築することを目的とした。

B. **研究方法と成果**：

- 1) 本研究班を構成する関係学会・団体の中で無痛分娩の実施体制そのものには直接関わらない日本周産期・新生児医学会を除く日本医師会・日本看護協会・日本産科婦人科学会・日本産科麻酔学会・日本産婦人科医会・日本麻酔科学会に対して、『「無痛分娩の実態把握及び安全管理体制の構築についての研究」の研究経過のご報告ならびに貴学会の「無痛分娩に関するワーキンググループ（仮称）」への参画のお願い』（別紙 1、別紙 2）という文書を送付した。
- 2) その結果、送付した全学会・団体から参画に同意する回答を得た。
- 3) 2018 年 3 月 15 日付で参画に同意を得た学会・団体に対し「無痛分娩に関するワーキンググループ（仮称）設置のための準備委員推薦のお願い」（別紙 3）という文書を送付した。
- 4) その結果、全学会・団体から準備委員の推薦を得た。
- 5) 2018 年 3 月 31 日に研究班からの呼びかけで「無痛分娩に関するワーキンググループ（仮称）」準備委員会「第 1 回会議」を開催した。（別紙 4、別紙 5）

C. **考察**

関係学会・団体の協力により、研究班の検討の成果としての提言の実現を担う組織の立ち上げに向けた活動を開始することができた。本研究班は 2017 年 8 月に活動を開始しており、活動期間は短かったが、集中的な検討を行うことを通じて、異なる背景、立場を有する学会・団体が今後の活動の方向性を共有することが可能になり、年度内に新たな組織づくりについて、各学会・団体の組織決定した上での参画を実現した。

E. **結論**

本研究班の検討の成果としての提言の実現を担う新たな組織の立ち上げにむけた活動を行い、組織を構成する関係学会・団体の一定の合意を

得た。

F. **健康危険情報**：特になし。

G. **研究発表**：特になし。

H. **知的財産権の出願・登録状況**：特になし。